

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	サポートファーマー育成事業		
事業担当	経済部 農水産課		
予算科目	01-060103-040000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	04	基本目標4 活力とにぎわいに満ちたまち	
	03	③〈新しい芽〉 リーダー、後継者が育ち活躍できる環境をつくる	
	02	2 新しい価値観や豊富な行動力をもった担い手が、継続的に育成されるしくみをつくる	
根拠法令等			
対象・受益者	平塚市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： JA湘南 】		
	目的・目標		事業の概要
	農業者以外の市民が農業に従事できるよう、農業技術研修などを実施することにより、援農組織へ登録する援農者や新規就農者などの担い手が育成されています。		農業の担い手の育成のため、研修農場で作付け、肥培管理、収穫などの農業技術研修を開催します。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	サポートファーマー研修会開催回数						単位	回
	説明・算定式	農場での実技研修および講義研修の回数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		47	47	47	47	47	47	
	実績		44	44					
活動指標②	指標名	-						単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標			-	-	-	-		
	実績								
成果指標①	指標名	援農者数						単位	
	説明・算定式	研修会修了後、援農組織などへの登録者数							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		10	14	18	21	24	27	
	実績		11	18					
成果指標②	指標名	-						単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標			-	-	-	-		
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
農家の高齢化や後継者不足が進行する中で、定年退職者や農業に興味がある市民を対象に農業研修を実施し、農作業の手伝いや遊休農地を解消する等の援農活動をする新たな担い手の育成に寄与することができました。20年度は新たに7名が登録し、JA湘南サポートバンクへの登録者数は合計18名になりました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	定年退職者や農業に興味のある市民にとって、専門的な指導のもと一年間をとおり、指導が受けられることは、食の安全性も含め、研修の参加者数から判断すると市民ニーズが高いです。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	研修会の受講により専門的な知識、農家としてのノウハウを習得できることから、有効性が高いです。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	参加者より年間、8000円の負担金を徴収し、市で借用している土地の使用料に充当しています。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	収穫した種や苗等を翌年度用に保存し、経費の削減を図ります。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 研修内容の充実と、卒業生のフォローアップが今後の課題です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			研修会の開催、援農ボランティア制度の検討	研修会の開催、援農ボランティア制度を創設	研修会の開催、援農ボランティア制度を周知	研修会の開催、援農ボランティア制度の周知	研修会の開催、援農ボランティア制度の周知	研修会の開催、援農ボランティア制度の周知
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	86	165	234	234	234	234
	一般財源	0	378	519	677	677	677	677
事業費 (A)		0	464	684	911	911	911	911
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.65	0.65	1.15	1.15	1.15	1.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	5,455	5,455	9,610	9,610	9,610	9,610
フルコスト (A+B)		0	5,919	6,139	10,521	10,521	10,521	10,521

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 農業従事者の高齢化、後継者不足が進行する中で、農業者以外の市民に補助的労働力として協力していただくため、継続的に本事業を開催し、将来援農活動ができる新たな担い手を育成します。	
平成22年度 of 取組方針	
研修内容の充実を図り、援農ボランティア制度の周知を行います。	
課長コメント	地域農業の持続的な発展を図るため、農業者の高齢化や後継者不足を補完するサポートファーマーの育成を継続するものです。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		農家の高齢化や後継者不足が進行する中で、定年退職者や農業に興味がある市民を対象に農業研修を実施し、農作業の手伝いや遊休農地を解消するなど援農活動をする新たな担い手の育成に寄与することができた。19年度卒業生20名のうち、11名がJA湘南のサポートバンクに登録した。	農家の高齢化や後継者不足が進行する中で、定年退職者や農業に興味がある市民を対象に農業研修を実施し、農作業の手伝いや遊休農地を解消する等の援農活動をする新たな担い手の育成に寄与することができました。20年度は新たに7名が登録し、JA湘南サポートバンクへの登録者数は合計18名になりました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		研修内容の充実と、卒業生のフォローアップが今後の課題である。	研修内容の充実と、卒業生のフォローアップが今後の課題です。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		研修内容の充実を図り、援農ボランティア制度の周知を行う。	研修内容の充実を図り、援農ボランティア制度の周知を行います。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	より多くの小中学生が体験漁業に参加できる機会をつくるため市の関与の必要があります。
有効性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	小中学生に魚や海への関心を持たせるための体験乗船や市場見学を継続的に行うことで、成果の向上が期待できます。	● 高 ○ 低
妥当性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	将来の担い手を確保するためには、小中学生を対象として事業を実施することが妥当です。	市と平塚市漁業協同組合が役割を分担し、連携し実施するものであり効率性は高いです。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	今後に向けた課題の分析 単年度実施では効果が薄いため、毎年度継続して支援していく必要があります。			

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			小学生の体験乗船、市場見学などへの支援	小学生の体験乗船、市場見学及び漁業者の研修等を支援	小学生の体験乗船、市場見学及び漁業者の研修等を支援	小学生の体験乗船、市場見学及び漁業者研修会等の支援	小学生の体験乗船、市場見学及び漁業者研修会等の支援	小学生の体験乗船、市場見学及び漁業者研修会等の支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.27	0.27	0.12	0.12	0.12	0.12
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	2,266	2,266	1,003	1,003	1,003	1,003
フルコスト (A+B)		0	2,266	2,266	1,003	1,003	1,003	1,003

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 漁業に関心を持つ児童・生徒を増やすことや若い漁業者自身の研鑽を積むために、毎年度継続して事業を支援していく必要があります。	
平成22年度の取組方針	
小・中学生を対象とした体験漁業等の継続的实施を支援するとともに、漁業者の研修機会の拡大等を働きかけます。	
課長コメント	将来の漁業の担い手の確保とともに若手漁業者の育成を目的として着実に事業を実施していることから、引き続き必要な支援を行っていくものです。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		小・中学生の体験漁業や研修会等の開催で海や漁業への関心を高めることができた。	小・中学生の市場見学会や体験漁業、研修会等の開催で海や漁業への関心を高めることができました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		平塚市漁業協同組合の育成事業は将来の漁業者の減少が予測されることから小・中学校に呼びかけを行い継続して支援していく必要がある。	単年度実施では効果が薄いため、毎年度継続して支援していく必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		小・中学生の体験漁業や研修など参加者の増加を検討する。	小・中学生を対象とした体験漁業等の継続的实施を支援するとともに、漁業者の研修機会の拡大等を働きかけます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。